夕刊 臺灣新民報
十月二十七日
（第二種郵便物認可）昭和十七年十月二十八日（水曜日） 臺灣日日新報 第一万五千三百十九號 4 （一）

新中國の首腦迎へ 新民會全聯協議會

參戰華北總力體制強化

【北京二十七日發同盟】來る十月廿日より北京に開催される大東亞戰の戰勝祝賀に關する華北新民會の總力體制をより強化し大東亞の長期戰完遂のための諸般の施策を討議する第六回新民會全聯協議會は二十七日午前十時より北京中山公園内中央公會堂に於て開催された。同會議には新民會中央指導部より王會長、繆斌最高顧問、齋藤大使、大東亞省より青木次長、陸軍より岡部第一課長、海軍より大野大佐、興亞院より喜多政務部長、大使館より參事官、各地方聯合會より代表者多數參集した。

王會長は開會の辭として「今回の會議は

戰爭生活態勢確立
二大國民運動展開
反省、自肅の諸行事決る

大東亞戰爭一周年

長期の戰を覺悟からなり發くた大東亞戰爭は、あの十二月八日に發生されてからすでに一年になる。おる十二月八日はその第一期作戰に於ける一大ピリオドを劃するものであるから、國民は一年のその日に於ける戰果を思ひ、戰死者の冥福を祈るとともに、更に將來の大飛躍に對して、自肅自戒を誓ひ、銃後國民としての總力を擧げて戰ひ抜く決意を新たにすべきである。この二年の間日のきょうは、國民各自がそれぞれの立場に於て、それぞれの方法で、大東亞戰爭の意義を深く考へ、戰ひ抜く決意を新たにすべきである。

【東京電話】大東亞戰爭一周年を記念する十二月八日は、その前日の七日（月）午後一時から、宮城前廣場に於て、陸海軍將兵、文武官、一般國民多數參列の下に、宮城遙拜、戰勝祈願、戰死者の英靈に對する感謝、黙禱を行ひ、午後二時から、靖國神社に於て臨時大祭を執行、更に午後三時から、日比谷公會堂に於て、大東亞戰爭一周年記念國民大會を開催、午後七時から、ラジオ放送を通じ、全國民に對し、大東亞戰爭一周年に當つての決意を表明することになつてゐる。

【東京電話】大東亞戰爭一周年を記念する國民大會は、七日午後三時から、日比谷公會堂に於て、陸軍、海軍、情報局、大政翼贊會、大日本婦人會、大日本青少年團、大日本産業報國會、大日本興亞同盟、大日本報國會、大日本國防婦人會、大日本海洋少年團、大日本連合婦人會、大日本聯合青年團、大日本學生總連合會、大日本翼贊壯年團、大日本少國民錬成會、大日本農業會、大日本商工會、大日本水産會、大日本海事協會、大日本鐵道會、大日本電氣通信協會、大日本航空協會、大日本港灣協會、大日本電力聯盟、大日本石油會、大日本瓦斯協會、大日本鑛業會、大日本土木會、大日本建築會、大日本金融會、大日本貿易會、大日本倉庫協會、大日本通運會、大日本海運會、大日本造船會、大日本機械工業會、大日本化學工業會、大日本繊維工業會、大日本食糧協會、大日本畜産會、大日本出版會、大日本興業會、大日本新聞會、大日本放送協會、大日本映畫協會、大日本演藝會、大日本體育會、大日本報德會、大日本生活協會、大日本生産擴充會、大日本生産力擴充會、大日本生産力擴充會、大日本生産力

臺灣日日新報　第一萬五千三百十九號　昭和十七年十月二十八日（水曜日）　（第二版）　明治卅一年五月九日第三種郵便物認可

南太平洋海戰大く輝く大戰果

空母四、戰艦一を撃沈
敵機二百以上を撃墜
ソロモン方面戰果も莫大

【東京發同盟至急報】大本營發表（二十七日午後八時三十分）一、帝國艦隊は十月二十六日黎明より夜間に亙りサンタクルーズ諸島北方洋上に於て敵有力艦隊と交戰敵航空母艦四隻、戰艦一隻、艦型未詳一隻を撃沈、戰艦一隻、巡洋艦三隻、驅逐艦一隻を中破し敵機二百機以上を撃墜その他に依り喪失せしめたり

我が方の損害　航空母艦二隻、巡洋艦一隻小破せるも何れも戰闘・航海に支障なし、未歸還機四十數機

（註本海戰を南太平洋海戰と呼稱す）

二、第二次ソロモン海戰以後南太平洋海戰直前まで即ち八月二十五日より十月二十五日に至る間に於けるソロモン群島方面の帝國海軍部隊の戰果左の如し

一、艦船撃沈　米航空母艦ワスプ、巡洋艦三隻、驅逐艦五隻、潜水艦六隻、輸送船六隻、掃海艇一隻大破　戰艦一隻、航空母艦二隻、巡洋艦一隻、水艦一隻、輸送船二隻、掃海艇一隻中破　航空母艦一隻、巡洋艦一隻、潜二、飛行機撃墜　四百三機、地上撃破九十七機その他敵B一七型大型爆撃機十九機に對し大なる損害を與へたり

（二）艦船沈没　巡洋艦二隻、驅逐艦二隻、潜水艦一隻、輸送船五隻、大破逐艦一隻、輸送船三隻中破、巡洋艦一隻、驅逐艦三隻、潜水艦一隻、輸送船二隻我が方の損害（一）飛行機　撃墜二十六機、大破三十一機、未歸還機七十八機（二）艦船沈没　巡洋艦一隻、驅逐艦一隻、自爆二十六機

米陸海軍間極度惡化
敗戰海軍の責任を追及

【リスボン二十六日發同盟】ソロモン群島方面において米國海軍が再び惱めな敗北を喫したことはそれでなくても開戰以來相續ぐ敗戰で信用を失墜、職合國並びに米國民からは「米海軍の存在いづこにありや」と疑はれ米陸軍からさへも兎角の批評を浴びがちだつた米海軍の面目は丸潰しにされた形である、ソロモン海戰こそはこの米海軍が必死の名譽回復策として打つた手だがそれだけに戰闘開始以來海軍當局は事實無根の戰果なるものを發表してここを先途と大袈裟な宣傳に躍起となつた（然しながら相續ぐ敗戰は如何ともなし能はず驅逐艦、巡洋艦、航空母艦などの損害を小出しに發表して居つたが、去る廿四日南太平洋水域の同艦隊司令官の更迭を發表するに及んで完全に馬脚を現はすに至つた、斯る狀態だつたから議會でも海軍問題が公然と論議され二十七日の下院では民主黨のジョン・コステロ議員、痛烈に海軍を攻撃「海軍がソロモン海戰を試みたことは愚するに黒星續きの惡評を慨罔するため以外の何物でもなく又斯る大作戰を陸軍に知らせず協力を求めなかつたのは愚の骨頂で敗戰も當然である」と喝破した、更に米國の雜誌、新聞も最近は海軍を無視し世界民主國を誤るは米陸軍とまでいふに至り海軍の勢威は全く地に落ちた、そこで現はれたのが太平洋敗戰の將パート・大將でサタデイ・イヴニング・ポスタに一筆を呈し米海軍飛行隊は絶計な宣傳をしない空軍であり又海軍軍人であるわれわれはその見る目に間違ひはない、海軍偵察はその見た艦艇が如何なるものかはつきり判るから誤船を大型輸送船といふやうな報告はしない

と陸軍に一矢を酬いたが、こんなことで國民は納まらないのみか完全に陸軍を怒らせ、これにより米陸海軍間の關係は「ライフ」十月十九日號によれば未だ甘つて見ざる程惡化したと云はれてゐる

聯合國民の失意深刻

【ストアホルム二十六日發同盟】ソビエト政府が去る九月二十九日の談話において行政機構の改革により本年度豫算に臨時軍事費を計上し戰時體制を確立したる事實に關聯し最近ソビエト各地の地方ソビエトの改選が行はれつつあるが、この改選は從來の改選と異り、新中國の建設に邁進すべき實質的な意義を有するものであるとの觀點から行はれつつあるもので、改選は從來の如く單に候補者を推薦するのみでなく、候補者は各選擧區の有權者の前に出でその政綱を發表し、有權者はこれに對し質問を發し候補者はこれに答へるといふ方法で行はれつつあるが、改選の結果

事業發展に即して
臺拓の新機構成る

課長級異動發令

本島郵貯飛躍的激增
九分蕨通信部から發表

新鋭推進隊員養成
臺灣神社境内に

内外商況

煙草工場復歸

建設指導會議

源電力水
豫定通り竣工

臺灣拓殖株式會社
事業發展に即して新機構成る

課長級異動發令

本島郵貯飛躍的激增
九分蕨通信部から發表

新鋭推進隊員養成
臺灣神社境内に

内外商況

煙草工場復歸

建設指導會議

源電力水
豫定通り竣工

事業發展に即して
臺拓の新機構成る

課長級異動發令

本島郵貯飛躍的激增
九分蕨通信部から發表

新鋭推進隊員養成
臺灣神社境内に

内外商況

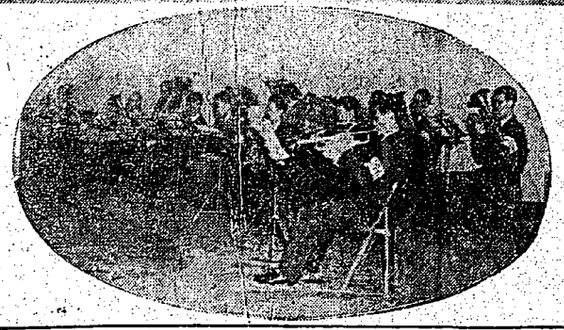
煙草工場復歸

建設指導會議

源電力水
豫定通り竣工

典祭社神
謹賀新年
武夫將軍皇祈
久長運武

臺灣神社奉納催物



寫眞上は公會堂の予輔『田植ゑ祭り』
下は新公園音樂堂の吹奏樂演奏

大東亞戰下 初の臺灣神社祭

時艱克服祈願の市民
夜を罩めて參拜
島都奉納催し物に賑ふ

新竹神社
國幣小社へ
近く決定の旨督府より內報

新竹神社例大祭を執行
總督・幣帛供進使として參向

わが交通運輸に一新紀元
鐵道關門トンネル
十一月十五日と決定、きのふ發表

關門直通を機に
國鐵各線の列車時刻を改正

東亞文化の建設へ
大東亞代表者大會臺灣代表語る

長谷川總督
士林 産業戰士を激勵視察

皇奉新竹支部
十一月の行事

熱誠遂に自然を克服
高雄州 屏東郡下に第二のサヨン

十ケ年計畫で
乳牛增産强化

神宮大會各地代表續々入京

松山國語常用挺身隊
きのふ晴の結成式擧行

皇奉新竹支部
十一月の行事

東京、鹿兒島間
約二時間短縮

臺灣代表第二班きのふ入京

軍司令部でタイピスト臺北
會部それぞれ養成

けふの運動

食欲が進み、胃腸自然健康
メキ〜に效く
使用は簡單
朝夕十五分
女も子供も老人も！

持って力になる
母
救急藥
スグ役立ち
效果的確！

時計入手の好機
久長

今日の映畫

金星堂 藥舖
有限會社 南亞工藝社

擧國一致聖戰完遂 奉祝臺灣神社祭典 祈皇軍將兵武運長久

臺北市本町 株式會社 桑田商店 電話二九〇番
臺北市榮町 菊元 電話一六七三三番
臺北市本町 株式會社 日進商會 電話二三四四・四三五一番
臺北市本町 福田呉服店 電話二二五四番
臺北市榮町 松井呉服店 電話四二四二番
臺北市榮町 大倉本店 電話四九九〇番
臺北市榮町 秋本蒲團店 電話四四二八七六八三番
臺北市京町 秋本糸店 電話五〇〇七九番
臺北市榮町三 藤井呉服店 製網營業所 電話三九七七五五五〇番
臺北市榮町 鎌野時計舖 電話二九三七番

臺灣神社祭迎へ
新穀感謝奉告祭
きのふ・臺南神社で嚴に執行

【臺南電話】大東亞戰下最後の秋を迎へた臺南神社の例祭は二十七日前八時より本殿に於て嚴に執行された、午後一時から氏子大會（地鎭祭）が開かれ、午後六時に開始された、この日祭典に參列した者は二千餘名に達した

【臺南電話】臺南神社の例祭は二十七日前八時より本殿に於て嚴に執行された、午後一時から氏子大會（地鎭祭）が開かれ、午後六時に開始された、この日祭典に參列した者は二千餘名に達した

【宜蘭】【臺南電話】宜蘭神社例祭の當日は二十七日前九時から神社本殿に於て嚴に執行された、午後一時から同社境内に於て、郡守、警察課長代理、各街庄長、各學校長、各團體長、各部落代表者等參列の下に相撲大會が開かれ、午後六時に終了した

【臺中】【臺中電話】臺中神社例祭は二十七日午前八時より本殿に於て嚴に執行された、午後一時から氏子大會が開かれ、午後六時に終了した

【臺中】【臺中電話】臺中神社例祭は二十七日午前八時より本殿に於て嚴に執行された、午後一時から氏子大會が開かれ、午後六時に終了した

【嘉義】【嘉義電話】嘉義神社例祭は二十七日午前八時より本殿に於て嚴に執行された、午後一時から氏子大會が開かれ、午後六時に終了した

【嘉義】【嘉義電話】嘉義神社例祭は二十七日午前八時より本殿に於て嚴に執行された、午後一時から氏子大會が開かれ、午後六時に終了した

【臺南】【臺南電話】臺南